



山添理事長の挨拶、正面左から外岡、戸川、長谷山、加藤、岩上山添(中央)、和田、鞍田、勝賀瀬、萩原、池田の各氏。

同窓会会報

昭和44年11月15日
 茨城県 東茨城郡
 内原町鯉淵
 発行所
 鯉淵学園同窓会
 印刷所
 新いばらきタイムズ社
 〒311 5128

鯉淵学園創立二十周年記念式典挙行される

十月十六日、記念式典は、無類の晴天に恵まれ、多数の参列者を得て盛大に挙行された。

学園の協力を挙げての準備も、前日の十五日にはすつかり整い、来賓の一部と同窓生の一部は早くも姿を見せ、さらに夕刻から夜にかけては遠来の同窓生が相次いで楽しい前夜祭風景がおそくまで繰りひろげられた。

式典当日は、早朝から来賓、同窓生ともに続々到着、式場の講堂も溢れるばかりの盛況であった。同窓生一六〇名、一般来賓八〇名、職員、学生二六〇名、それぞれが黄又は白の菊花(来賓と職員)、ブルーのリボン(同窓生)、ピンクのリボン(在学生)を胸に飾り、みんな心から「二十周年めでとう」と祝詞を交わすその明かるい顔、二十周年を迎えた喜びは広い学園のすみずみにまで湧き溢れた。

参列下さった主な方々は、山添利作(協会理事長)、池田斉(協会事務局長)、勝賀瀬賢(協会理事)、和田博雄(同上)、石井一雄(農林省普及部長)、長谷山行毅(協会顧問・全国農業会議所会長)、戸川英胤(全国農協中央会参事)、その他農林省、協組短大、家の光協会等の中央関係一八名。又茨城県から、岩上二郎(県知事)、柴野敏(県農林水産部長)、外岡

左近(県農協中央会長)、加藤完治

(高等国民学校名譽校長)、その他県庁、農業試験場、茨城大学、市町村農協組合長等の県内関係四一名。田

職員では、伊藤義雄(栃木県大田原高校校長)、藤懸了雄(石川県富来町、寺院住職)、大木一郎(茨城県経営伝

習農場長)、深作哲太郎(茨城県農業試験場長)、菊地捨三(茨城県石

岡農業改良普及所次長)、酒井博(東北大学)、小田秀夫(茨城県庁)、

渡辺喜一(茨城国際農業研修会館)、徳原経助(同上)のみなさんその他

かにも数名の方。それに初代学園長小出先生の奥様(貞子夫人)とお嬢

様(詞子様)、国際キリスト教大学教授(授)がおいで下さったこともほんとうに嬉しいことであった。

一、開式(十一時二〇分)

二、創立二十周年記念事業委員会、農民教育協会を代表して山添

理事長の挨拶

三、鯉淵学園創立二十年の経過報告(2頁)

四、感謝並びに表彰(4頁)

五、農林大臣祝辞(石井普及部長代読)

六、来賓祝辞(岩上茨城県知事ほか)

七、同窓会長挨拶(5頁)

八、閉式(十二時三〇分)

(主要記事は276頁)



鯉淵学園創立二十年の経過
を報告する 敬田学園長

鯉淵学園二十年の歩み

学園長 敬田 純

私たちの鯉淵学園は、昭和二十年の十一月一日に、全国農業会高等農事講習所として発足しました。今日からちょうど二十年前のことです。

それより前この地域に、農業開拓指導員養成所と同幹部訓練所がありましたが、終戦に伴ってそれが閉鎖されることになりました。他方当時の全国農業会は、日本農村再建の

基礎事業の一つとして、農業指導者の養成を計画し、その施設としてこの指導員養成所と幹部訓練所とを併設することになったわけです。そこで、指導員養成所と幹部訓練所の施設とともに、教職員の一部を引続き、また指導員養成所学生中の希望者を再選考して、三学年を編成しました。それが本学園の第一期か

ら第三期までの卒業生であります。二十一年四月に入學した第四期生からは、毎年、全国各都道府県から合計一八〇名の学生を選考して入学させました。当時の中学校や農学校などの卒業生を入学させて、三カ年の課程で、広範な農業教育をすることにしたわけです。

指導員養成所時代には、農科、畜産科などの科別がありました。高等農事講習所になつてからは科別は廃して、最終学年になつてから、それぞれの得意な技術を身につけるよう、特別指導を加えて参りました。それが今日にまで続いている「特研」の制度です。

昭和二十三年になつて、全国農業会は解散しなければならなくなりました。そこで東畑精一先生や故湯河元威先生などが中心になられて、財団法人農民教育協会を結成され、この高等農事講習所の全施設、教職員、学生を引きつがれました。その際、

この施設のほかに、千葉県成田市にあつた東部講習所、兵庫県明石市にあつた西部講習所、長野県菅平にあつた高原農業講習所、鳥取県大山にあつた大山農場などの、全国農業会の教育施設も一しよに引きつがれました。しかし菅平の高原農業講習所以外は短期の再研修施設で講習生はいませんでしたから、学生を引きつ

いだのは高原農業講習所の学生二〇名だけでありました。この高原農業科の学生は、この学園に引きとつて、一カ年の基礎的教育をし直して、第五期生の一部として送り出しました。昭和二十四年の入学生からは、学制改革の結果として、本科は、新制高等学校卒業生を入学させて、二カ年で卒業させることにしました。

さて農民教育協会の経営に移りましてから、いろいろの構想を加えて教育の制度や方法を改めて参りました。

(一) 名称を鯉淵学園と定めたこと
鯉淵というのはこの学園の所在地の地名であります。その鯉淵という言葉に「鯉がおどる淵」と意味づけて見ますと、青年の教育の場としては非常に適当な名前である、と考えたからであります。

(二) 教育の目標について
全国農業会時代には、農業会の職員としての農業指導員養成を目的としていましたが、農民教育協会の経営に移るに当つては、もつと広く、農村の指導者をいし指導的農民の養成を目指すことに致しました。まもなく農業改良普及員の制度ができ、農林省からその普及員の養成を委託されましたので、学園と致しましては、その要請にもこたえりるよりの教育に努めて

参りました。

内わで十周年記念式を開きました。私には次のように述べましたが、その態度は今日も変わっておりません。私たちがねらっているのは、「自営農民であれ、普及員や農協の職員であれ、職業は何であつても要するに、積極的に農村にはいつて、農民の社会的・経済的地位の向上のために働らこうとする態度と能力とを身につけることではないうか。こんな使命観に徹することが、本学園の教職員や学生にとつては、何よりも大切なことだと存じています。」

(三) 科別について

全国農業会時代には、全学生に農業に関する広範な問題を学ばせようとしていましたが、それを少し分化し専門化して、本科を一般農業科、農業協同組合科、農村生活科と分けることにしました。また昭和三十七年からは、一般農業科を農業科と改め、それを園芸を主とするコースと酪農を主とするコースに分けています。

しかし、一般教育ないし基礎的な科目は、各科とも同じように力を注いでいますから、専門化したと申しても、それは極めてわずかの程度に過ぎません。

(四) 学園は、現実の農村社会と結び

ついでに参りよう、できる限りつとめて参りました。

具体的には、

(1) 農林省などの農業行政機関や試験研究機関、全国の農協、農家など、各方面の方々を特別講師としてお招きして、いろいろの生きた知識を与えて頂いたり、教職員にも学生にも、現実の農村や農業・農協などの見学・調査などをすすめてきました。

全学生を平均的にみて、本科二カ年間に旅行する範囲が広いことは、本学園学生の特徴だろうと思つています。主として先輩や友人の家庭をたよつて、北海道から沖縄までも旅行する学生も少なくないほどです。

(2) また本学園では、推広研究・推広事業・教育普及事業などに力を注ぎ、教職員は学園内の学生教育だけに閉じこもらないで、できるだけ広く、農村の人たちとの間で、知識や技術の交換を図ろうと試みたことです。

(3) 同じ趣旨で本学園では、本科のほか実科、選科、特別選科、研究科、通信教育制度などを設けたり廃止したりして参りました。これらも要するに、農家の子弟やその他の農村の要請に応じて、事

情が許す限り広く学園の門戸を開放し、私たち教職員も各方面から広く知識を吸収する契機にしよう、としてのことであります。

(五) 学園農場について

いろいろの悩みを重ねた上で、学園農場は、教職員の手による合理的経営と研究とを基礎にして、その経営と研究で苦勞している現場を、そのまま学生の実習教育農場として利用することを考えて、努力して参りました。

現在は園芸農場と酪農場に分けて経営しています。その苦しい経験の経過は、近く別に報告させて頂きたいと思つています。

(六) 自治的な全寮制度について

私たちはなるべく広く全国から学生を募集し、自治的な全寮制度によつて、社会的な人間性を開発するようにつとめて参りました。

全国の農村から集つた若い諸君が、二年間、一つの寮で自治的な生活をするにやよつてえられるものが如何に大きいかは、卒業生諸君がその経験から、異口同音に認めている通りであります。今日は約二百名の卒業生が全国から集まっていますが、諸君を今日ここに引きつけた力は、主としてこの全寮制度の中ではなく、またそれと

その他、いわゆる入学試験の廃止を断行してみたり、学科課程や実習方法を変えてみたり、いろいろの試行錯誤も重ねてきました。私たちの過去二十年は、学園の運営機構や施設についてと同じように、教育の制度や方法についても苦しい試行錯誤の連続でありました。

しかし私たちは、それを、必ずしも、単なる動揺であつたとは思つていません。情性におち人つたり固定した型にはまつてしまふことなく、社会の発展とともに一歩ずつでも進んでゆこうとしてきた前向きな態度であつたと自負しています。

なお、学園の略歴、施設の発展経過、年々の卒業生の出身県別の数や就職状況などは、簡単ですが別表で示しておきました。

後になりましたが、今日の二十周年式を迎えることができましたのは、農林省や、全国農協中央会を中心とした全国の農協、その他各種の農民団体、並びに地元茨城県など、広く各方面のご援助のおかげでありました。深く謝意を表するとともに、今後とも一層のご援助、ご鞭撻を下さいますようお願いいたします。

私たち学園の教職員は、各方面

からのご援助を背景にして、前に申しました学園の基本的な教育目標を再確認しつつ、日本の農村社会を動かせる青年諸君の育成に、全力を尽してゆきたいと、覚悟を新たにしていきます。

最後に今一言、この学園の創設並びに経営に非常なお骨折りを頂きました前理事長の湯河元威先生や初代学園長の小出尚二先生などは、今日はいもうご他界になつています。この機会に謹んで、感謝と哀悼の意を表させていただきます。

土地・建物の変遷―参考資料―

土地 創設当時の土地面積は一三四町歩余であつたが、昭和二三年から二七年の間に四回にわたつて約五〇町歩を農地解放、昭和三五年には農林省に約二五町歩を譲渡するなど、これまでに約八三町歩の減少、現在面積約五町歩である。

建物 創設当時は一八〇棟、建坪数約八〇〇〇坪であつたが、そのほとんどは杉皮葺のバラック建築で、瓦葺の本建築はわずかに二〇〇〇坪位。その後、整理、新築、移築などによつて、現在の総建坪数は三八四〇坪余である。移築並びに新築をした建物は次の通り、但し()の中の数字は年度、◎印は新築した



永年勤続者を代表して、山形理事長から表彰を受ける石橋教授

ことを示す。教育関係 総合研究室(26)、生活科教室(28)、第一、第三教室(28)、図書館(33・◎)、総合農場庁舎(36)、講堂(37)、生活科実習室(39・◎)、農場関係 園芸農場作業場及倉庫(33)、堆肥舎(39)、温室(38・◎)、酪農場乳牛舎(36)、管理室(36)、乾燥場(38)、成牛舎(39)、学生寮 女子寮(28)、男子寮(34・32・34・35)、食堂(35)、男子浴場(37・◎)、女子寮(34・◎)。

感謝状及び記念品を授与された方々

東 畑 精 一
和 田 博 雄
笹 山 茂 太郎
勝 買 源 一 賢
坂 田 英 一
黒 田 寿 男
鞍 田 齊 純
池 田 齊 俊 太郎
盛 水 俊 太郎
(以上九名)

永年勤続職員を表彰及び記念品を授与された方々

石 橋 幸 雄
近 田 秀 次
白 田 喜 代 志
松 川 四 郎
小 沼 智 郎
渡 辺 才 智
隅 野 一 郎
中 野 正 司
新 井 正 雄
河 合 康 雄
内 藤 大 吉
加 藤 大 吉
大 島 威 夫
飯 尾 利 夫
奥 村 祐 三
(以上十五名)

同窓会長挨拶

萩原 耕

同窓会を代表いたしました一言ごあいさつ申し上げます。

御来賓の皆様それから同窓生の諸君よくかいて下さいました。このように多勢の方々にかいてをいたただいてこのように盛大な記念式典が開催できた、ということとは、農民教育協会及び学園の諸先生方と共に、準備をすすめてまいりました私達執行部といたしまして、これ程うれいことはございません。どうもありがとうございました。

さて、私達の学園の伝統をつちかつてきた寮歌の中に「遙かにかすむ筑波峯、かげろうもらる常陸野の、削ゆる樺の新緑や」と歌われ、また茨城県民の歌にも「空には筑波白い雲、野には緑をうつす水、この美しい大地に生まれ」とありますが、この茨城の大地に生れ、育つてきた学園二十年の歴史の中から、多くの同窓生がはぐくまれ、築立つてゆきま

した。

今や私連同窓生は本科生のみでも一八〇〇名、通信教育学生を含めると実に二四〇〇名にも達しました。

そして殆んど大半の同窓生は全国各地の農村で、新しいタイプの農業者つまり農業近代化推進の核心ある農業者として、あるいは豊かな人間性と実践力を持つた第一線の指導者として、農業協同組合、農業改良普及員、農業試験場などをはじめ、広い分野で活躍するに至つたのであります。例を地元の茨城にとつてみますと、自分で農業をやつていゝわゆる農業者と第一線の指導者を合わせると一五〇名にも達し、いずれも一騎当千茨城農業開発の推進力として大きな役割を果たしております。

これらの事実は見方をひろげて申し上げるならば、私連同窓を含めて「鯉淵学園は、今や日本農業の発展のために非常に大きな任務をもつてゐる、そして大きな期待を寄せられてゐる」ということを意味してゐると



秋原同窓会★長の挨拶

いうことが出来ると思ひます。

同窓生及び学生諸君、私連は改めてこのことを認識し、大いに誇りを持ち、胸を張つて前進しようではありませんか。

御来賓の皆様、高いところから甚だ失礼とは存じますが、どうか鯉淵学園発展のためにこれからも一層の

御指導と御援助を下さいますようお願い申し上げます。

現在日本の農業や農村は大きく変わりつつあります。そして多くの優れた人材をますます必要としております。鯉淵学園が今後一層この期待にそつて行くためには教育内容を拡充していかねばならないわけであります。このことについては、鯉淵学園創立二〇周年記念事業委員会からすでに御案内のとおり、記念会館建設基金造成を各方面に依頼しており、私連同窓会におきましては現在このことに全力をつくしております。現在までの経過はきわめて順調でありまして、すでに約六〇〇名の協力があり、その額は間もなく一〇〇万円に達しようとしております。

もとよりこの額は記念会館建設基金全体からみれば僅かなものであります。しかしながら、第一期生でも四〇才前後という若い同窓生であり、会員の社会経済的環境を考えたとき、僅か数カ月でこれだけの応募があつたということは、如何に同窓生が母校を愛しているかということのあらわれに他ならないのであります。この記念会館建設基金造成につきましても御来賓各位の格段の御協力を心からお願ひ申し上げる次第であります。

なお本席をお借りして農民教育協会の理事の諸先生方及び学園の諸先生方にお願ひいたします。学園の二十年の歩みは、私が今更申し上げるまでもなくほんとうに苦難の道でありました。本日目出度く表彰された諸先生はじめ皆さん本場に御苦労様でした。これからは御苦労が多いことと存じますがどうか頑張つて下さい。この鯉淵学園発展のために、そしてひいては日本農業の発展のために御奮闘して下さいを心からお願ひいたします。そして私連同窓生もあらゆる協力を惜しまないことを、本日この式典に参加してゐる二〇〇名の会員と共に誓うものであります。

茨城県の歌に「世紀をひらく原
子の火」という一節があります。こ
の茨城が、新しい日本農業をひらく
先驅になり、そしてその原動力とし
て、距離学園が益々充実発展するこ
とを心から祈りまして私の御挨拶と
いたします。

本科卒業生(一七二〇期)

就職状況 — 参考資料 —

農業自営	三九五
農業協同組合	四一七
農業共済組合・農業会議	
農業委員会など	七七
農業改良普及員	二二六
試験研究機関	七七
食糧事務所・統計調査事 務所・市町村役場など	二五三
教育機関職員	七〇
民間会社々員	一五八
農業以外の自営・その他	六五
合 計	一七四八



図書館前の祝賀パーティー会場メーンテーブル

慶びに湧き立つ記念祝賀

パーティー

図書館前の芝生上に設けられた会
場は、風ひとつない絶好の秋日和十
二時四十分萩原同窓会長の司会によ
つて始められた。白田助教の指導
によつて、生活科の学生諸君が日頃
の腕によりをかけて作つてくれた山
海珍味、林立するビールを前に山
添理事長の主催者挨拶、続いて加藤
完治氏の音頭で乾盃、来賓も同窓
生も職員もそして学生もみんな入り
交つての野外パーティー、午前中の
式典に間に合わなかつた同窓生も途
中から加わつて、いつしかパーティ
ー会場はグラウンドの中程まで広がつ
た。大いに映へ、大いに飲み、心ゆ
くまで語りあひあひの明るい顔、嬉
しい顔、そして喜びの顔。テーブル
スピーチに続いて早くも心よさそう
な赤ら顔から余興も飛び出して清場
大喝采。今までの苦労も、すぎゆく
時間もすつかり忘れた、距離学園始
まつて以来の大団らん、大パーティ
ーであつた。十四時三〇分名残りを
惜みつつ寮歌の合唱続いて和田博雄
氏に合せて距離学園の万才三唱。嬉
しさの余り学生諸君は萩原学園長と
萩原同窓会長を高くと褒めあげ。祝賀
パーティーの終了した後、喜びの
余韻は何時まで何時までとも統いて
いた。

二十周年記念式典・

同窓会大会出席者氏名

- 北海道・野島利明(19) 家木久野
(19)、鈴木カツ子(20)、岩手・
佐藤隆(2)、佐藤節夫(3)、及
川敬士(9)、富場栄一(13)、小
野寺達男(13)、岩濤斉(15)、三
浦邦男(15)、秋田・深沢慶吉(15)
濃岐雄象(19)、山形・佐藤重道(20)、
佐藤弘志(20)、石井善兵衛
(20)、宮城・金子哲(4)、福島
・草野辰雄(2)、茨城・宮本浩三
(1)、松村修司(1)、萩原耕(2)、
中郡金三(2)、高橋昭二(2)、
石井隆夫(4)、小泉真吉(4)、
張替誠一郎(5)、鈴木聖志
(5)、吉田脩(5)、多田喜彦(6)、
栗田悦二(6)、稻見幸二(6)、
村山室(7)、渡辺正信(7)、
広原宗次(7)、立見健裕(7)、
増山勝(7)、田中茂秋(8)、向
井喜久男(8)、鈴木元雄(8)、
家村永昌(9)、藤田一二三(9)、
佐藤恭蔵(9)、鈴木幹男(9)、
後藤功一(9)、伊藤とし子(10)
高橋記美江(10)、真下寿宣(11)



図書館前からグラウンドの中ほどまで広がった盛大な記念パーティー

- 佐藤昭八(11)、野原小右二(11) 郎(3)、高橋宏明(15)、松田貞(14)、中野美通(子)(20)、堀玉・大滝殿(7)、清(19)、滝沢健夫(19)、宮下弘且(水原也(7)、藤城久子(17)、千(19)、森島一太郎(20)、青木敏(葉・江草恵(2)、高井徹(3)、20)、岐阜・高井泰夫(1)、熊谷悦大越正子(13)、宮田昭(14)、浅井関啓愛(3)、加藤三代太(7)、近(19)、池田静子(19)、愛知・田島男(14)、益子騎一(14)、宮給木洋子(19)、鈴木信子(19)、渡辺悦次郎(3)、小川明美(20)本博文(14)、林義雄(14)、長本高城武男(通教2)、高木積善(通幸代(15)、相田弘(15)、丸山朝教2)、東京・高木敏二(2)、木整(10)、福田道男(12)、長享年正由(15)、飯田栂子(15)、与儀実下利男(2)、石山真(2)、小口(19)、岩本佐智子(20)、和歌山光(16)、鈴木美枝子(16)、内田芳昭(2)、奥村勇資(3)、佐藤・早田仁(1)、島根・菅野繁樹(貞明(17)、山口幸子(17)、西村三郎(3)、磯田保(4)、佐藤文(20)、長瀬知子(20)、岡山・岡田寿玉以(17)、茂木洋子(18)、宮本雄(7)、相川信三(7)、藤井正郎(2)、金谷敏量(2)、竹内邦弘和江(19)、早川富美子(19)、関雄(8)、斎藤常夫(9)、青木久(18)、広島・中村勳史(2)、久根都理子(20)、秋場ふじ(20)、良子(16)、住吉達男(17)、安掛保良雄(2)、仙光保喜(20)、山藤原政夫(20)、奥野伸一(20)、精守(18)、平山力(19)、神奈川口・原田美幸(9)、徳島・原口矢口しげ子(20)、笹沼達亮(特選・山口次夫(1)、宮川英一(2)、藤雄(4)、河井真澄(20)、香川・裕(特選1)、堀江茂邦(特選1)、宮路三郎(3)、新潟・倉繁男(14) 関和夫(8)、愛媛・戸田敏明(20)、高知・松本茂(8)、下村至(1)、福高知・石橋正吾(20)、佐賀・原口豊治、橋本・堀並清一(1)、湯沢隆夫(19)、高橋清一(20)、富山・岡・石橋正吾(20)、佐賀・原口豊治(1)、仁木潤(1)、細川貫一(1) 高田亨(1)、水野嘉孝(5)、竹(8)、加茂孝夫(11)、宮崎・浜川(黄)、渡辺忠雄(2)、川中子雄治 内敬俊(11)、松島雄雄(18)、鳥しげ子(18)、鎌田利男(20)、鹿児(5)、高島武(8)、藤原要一(谷應一(20)、石川・松本吉平(1) 島・宅間伸幸(10)、学園・板井昭利(2)、西村共夫(1)、砂田義雄(5)神長才夫(15)、石川信子(17)、福井・藤井武夫(1)、西田光雄(16) 坪野敏美(7)、田代秀子(7) 奥、高橋隆三(3)、枝川重二(13) 以上一九横木のぶ子(19)、藤原サダ子(20) 上野精一(20)、保珍良市(20)、五名(受付を頼まない方も若干人つて、佐藤良夫(20)、桑島千代子(20) 長野・宮川友雄(3)、小林道男(かりますし誤記又は記入もれなどもあるかも知れませんが) 小平伸(8)、宮沢昭男(、群馬・堤照徳(1)、飯島金次(1)



同窓会大会で卒業生を励ます和田博雄氏。右側の後向きは大会議長の小口芳昭氏。

昭和40年度決算報告書

(昭和39.10.1～40.9.30)

1. 一般会計

収入の部			支出の部		
科目	49,41 年度予算	40 年度決算	科目	49,41 年度予算	40 年度決算
前年度繰越金	56,066	56,066	名簿補正費	25,400	24,400
会費収入	440,000	476,680	会報発行費	100,000	14,400
預金利子	45,000	6,540	通信費	70,000	27,316
雑収入 (名簿代)	1,400	2,334	事務費、雑費	60,400	65,633
		66,300	旅費	60,400	39,260
			会議費	50,400	46,180
			借入金返済金	20,000	5,500
			予備費	117,066	0
			繰越金		109,111
合計	502,066	307,800		502,066	307,800

会報(1月10日付)代7,140、20周年基金受領証ハガキ代3,000、趣意書代3,600、発送費(郵送費)15,820、合計29,560円は学術経費から支出し、会報(4月1日付)代16,180、発送費17,320、合計33,420円は20周年経費から支出しているため上記決算に含まれていない。

パーティーの気分が醒めやらぬ午後三時二百名近い出席者で開会。大会議長に小口芳昭氏(東京2)、副議長に井関雅愛氏(千葉3)を選任。書記に井手正英(学園15)、榎木幸輔(学園24)の両氏、議事録署名人名簿(学園24)の両氏、向井喜久男(茨城4)の両氏を任命。議題に入る前に来賓としてご出席下さった山添理事長、和田、勝賀瀬の両理事、鞍田学園長に、それぞれ私たちのためにお祝いと励ましのお言葉をいただきました。

その後すぐ本題に入り、事務局から記念事業を含む49年度事業報告並びに決算報告書を提出、鈴木聖志氏(茨城5)から監事報告があつたのち一括審議、可決されました。事業報告は、その都度同窓会報に経過を掲載しておりますのでここでは省略し、一般会計の決算報告だけ記しました。入会金関係の特別会計は現在高四六九〇〇〇円、二十周年記念事業関係の特別会計は、九月三〇日現在で七〇七六〇〇円であります。

第七回同窓会大会開催される

昭和41・42年度予算

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
前年度繰越金	189,111	名簿補正費	34,000
会費収入	403,860	会務発行費	50,000
金利	54,000	通信費	104,000
名簿代	96,000	事務費、雑費	140,000
収入	2,400	旅費	58,000
借入金	104,000	会議費	45,000
		借入金返済金	50,000
		名簿発行費	240,800
		予備費	38,111
合 計	751,111	合 計	751,111

一六日夜はおそくまで学生諸君の演劇発表会、一七日は終日大運動会、これまた好天に恵まれ久し振りの母校グラウンドで存分に羽をのばしていただきました。

その他

一・二・三合同々期生会
六時三〇分から来賓賓客で開かれました。紙面の都合で別々にし、一・二・三期全員に同封しました。

そのほかに審議決定されぬ事項は次の通りです。
①二十周年記念事業は目標達成まで、今後とも一そう強力で推進すること。
②同窓会代表を農民教育協会理事として推薦し、現在の協合理事に積極的に力添えをし、離魂学園発展のために協力すること。
③第八回同窓会大会の会期を昭和42年11月3日とすること。
④第6回大会で決定されていた41年度予算を修正し、42年度と合せて別表のように決定
⑤現役員の任期を42年度まで延長すること。
⑥坂田農林大臣に請願書を提出したことについての了解(大臣は国会会期中で残念ながら出席されませんでしたので石井普及部長に托し、手

渡していただくようお願いしました) 以上のよう山盛りの議題でしたが、小口議長はあざやかに捌いて各支部代表の報告まで挿入して下さいました。予定時刻の六時少し前、大会の全日程を無事終了しました。

祝電

タイカイワシニクシゴセイカイワシニル(福井支部)、ゴセイワシニクシノウソソノバイオニヤガタエンノカギリナイハツテンヲイノル(沖繩支部)、ゴセイカイワシニクシノゴノゴハツテンヲイノリマス(東京(3)和田文雄)、以下同文(北海道(19)三品賢治・島根(17)加藤美保子・沖縄(2)後藤西末子) ロスマンセルの近藤金一氏(9)からはお祝の電話をいただきました。

四一年度学生募集についてお願い

学園では、同封しました募集要項によつて今年も学生募集をすゝめてあります。四十年度は皆さんのご協力によつてたくさんの方を入学させました。四一年度は新に専攻科を設け、本科を含めた学園の教育全般にわたつて一そうの充実向上を図りたいと念願しております。どうかよい後援を一人でも多く紹介して下さい。よろしくお願い致します。

新女子寮完成

十月下旬、これまでの女子寮のすぐ後に、白壁のデラックスを新女子寮が完成した。総工費七六〇万円、総坪数約一〇〇坪、西人ずつ入れる部屋が八つ。各部屋には二段のベッドが左右にあつて、各人に机、ロッカー、共用用の鏡それに水道まで完備している。

広々としたきれいな風呂場や便利な洗濯室、水流便所と寮内全般の細かいところまで配慮してある。入寮は十一月中旬の予定。写真は新寮の右半分。玄関前に立つのは春以来新寮建築に骨折つてこられた河合事務課長(左)と学生係長の白田助教(内藤管理係長写す)。



完成した新女子寮